



第54号

大阪市史跡 龍溪禪師墓所 雲屯山九島院

発行所

〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4番18号  
TEL 06(6583)2725 FAX 06(6583)0908

発行者

第二十五世住職 奥田啓知(智證)

お寺が栄えることは檀信徒の喜びであり

揺れる「赤ちゃんポスト」

—生命は大切に—

熊本市の慈恵病院で「赤ちゃんポスト」(こうのとり)の運用が始まりました。全国で新生児の遺棄事件が多発するなか、乳児が産み捨てられ死亡してしまうのを防ぐため「緊急避難場所」として病院が設置したものです。病院の外壁につけられた扉を開くと保育器があり、赤ちゃんが置かれると、二十四時間対応職員が待機し保護するものだそうです。乳児の命を守るのか、子捨てを助長するのかが等々、その是非が議論されていますが、早速運用の始まった3時間後、三歳ぐらいの男児が捨てられました。慈恵病院が、「赤ちゃんポスト」の運営に乗り出したのは、同病院がキリスト教・カトリック系の病院であることと無関係ではありません。カトリックでは墮胎(中絶)は罪とされ禁止されています。避妊についても原則禁じておりコンドームの使用も認められていません。但し、オギノ式によ

る避妊は認められています。婚前交渉や結婚後の浮気も悪とされてきたので、諸事情で止むを得ず出来た乳児の命を救うため設置を進めたのでしょうか。仏教でも、淫らなセックスは禁じています。また墮胎も不殺生戒に触れ禁止されています。熊本に三歳男児が捨てられたとき、「赤ちゃんポスト」の先進国ドイツでも、一歳八ヶ月の女児が放置されたそうで、売春の「望まない妊娠」の尻拭いをしていくとの強い批判の声が上がっています。わが国では、赤ちゃんの置き去りは年間二百件近く起きていくといわれ、嬰兒殺し(満一歳未満の子の殺害)の検挙数も年間二十件ほどあります。大阪でも、大型スクーターの座席下のヘルメット入れに一歳の男児を放置殺害し、能勢の山中に遺棄した事件も報道されました。親の身勝手から行われる乳幼児虐待や置きささり、殺害は論外ですが、養育困難のため止むに止まれず決断される場合には、

「赤ちゃんポスト」はせめても救いの技になりうるのでは無いでしょうか。生命を大切にしない宗教はありませぬ。赤ちゃんは親の所有物ではないのです。赤ちゃんは授かりものなのです。キリスト教では神さまから、仏教では仏さまから授かったものなのだと思います。授かった以上は俺のものだと思いがちですが、お預かりしているのです。自分のものではないのです。赤ちゃんだけでなく、私たちの身体や生命もすべて、神さま・仏さまからお預かりしているのです。お預かりしているじゃないのです。大切にしなければならぬのです。それが、仏教の意



